



このように、人の命をつないでくれる大切な「水」ですので、古くから祈りの対象にもなっています。

宜野湾ムラ（現宜野湾市）は特に湧水に恵まれている場所で、戦前、ムラのいくつかの湧水からは導水管を通して那覇へも水を送っていました。中でも特に水量が豊富だったのが、大山と伊佐の境にある「オーグムヤーガー」（別称・フルチンガーラ）です。現在も水は豊富に湧いていますが、全体が暗渠になり田にすることができません。

しかし、那覇への送水を祝つてオーグムヤーガーに建立された「瑞泉潤民」の記念碑は、那覇市おもろまちの「那覇市上下水道局・みずプラッサ」の庁舎前に移され、今日でも目にすることができます。古来よりあらゆる生き物において欠かすことのできない「水」、これからも感謝の気持ちを持ち続け大切に使わせて頂きましょう。

さて、ダムができる以前の沖縄の水事情はどうだったのでしよう。おじいさん、おばあさんから話を聞いて知っている方も多いと思いますが、沖縄におけるかつての生活用水は「湧水」に大きく頼っていました。飲み水はもちろん、水浴や洗濯、野菜洗い、牛馬洗いなど、水を必要とする多くの作業には湧泉の水を使っていました。



▲1977年の航空写真



▲「瑞泉潤民」の碑 那覇市上下水道局庁舎前

問 文化課 ☎ 893-14430



## 地域との共同企画展 宜野湾の「字」展

ます！

▼期 間 1月31日(土)～3月29日(日)  
▼場 所 市立博物館 企画展示室  
▼入 料 無料



はぐぶつかん  
情報

博物館市民講座受講生募集  
【みぐてい、イガルーシマ  
「ajiのーんどうむらー」】

字宜野湾の街並みに残る戦前・戦後の痕跡を、徒步でめぐりながら紹介します。

字宜野湾の街並みに残る戦前・戦後の痕跡を、徒步でめぐりながら紹介します。

**【発掘－ぎのわん史】**  
これまでの発掘調査で分かってきた私たちが生まれる前の、「ぎのわんの歴史を垣間見ていきます。

▼日 時 2月22日(日)  
14時～16時(受付13時30分～)  
▼講 場 市立博物館 2階研究室  
▼定 員 長濱健起(市立博物館係長)  
①来場参加：40人  
②オンライン参加(ZOOM)：  
100人 ※先着順  
▼申込期間 2月1日(日) 9時～

問 申 市立博物館 ☎ 870-9317  
※休館日：火曜日・祝日  
※開館：9時から17時（最終入館は  
16時半まで）